

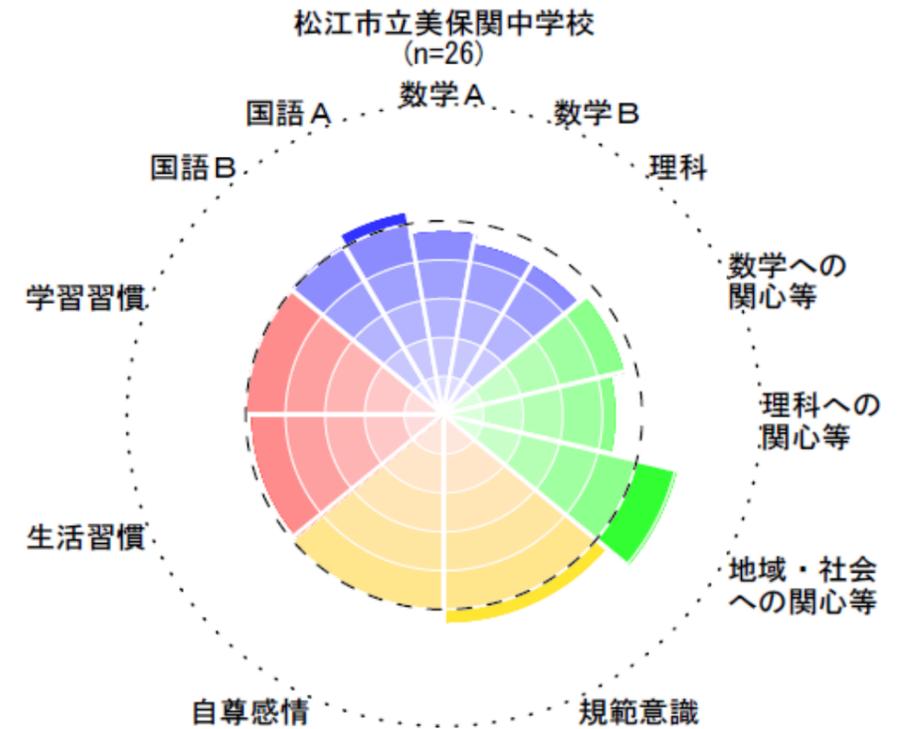
# 平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立美保関中学校）

平成30年9月25日

(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○：成果, ●：課題)	対策
国語	A (基礎)	○選択式、短答式の問いについて、正答率が高い。 ●漢字の書き取りと敬語、歴史的仮名遣いで、日常であまり用いない事柄について、定着していない。	・同じ内容の課題を定期試験などに出して復習することで、一度試験をした内容を確実に身につけることの大切さを知らせる。 ・日ごろから、敬語表現や慣用句などを使う機会を作る。
	B (活用)	○「話す・聞くこと」の問いについて正解率が高い。 ●「読むこと」や「書くこと」に関する問題では平均を下回っており、国語に関する関心・意欲・態度もやや低い。	・書き言葉の語彙が増えるように、図書館や掲示物など言語環境を意識して、生徒が知らない語を身につけるように工夫する。 ・背伸びした表現を使えるような場を作る。
数学	A (基礎)	○図形領域については、県平均とほぼ同じである。 ●基本的な計算問題で平均を下回っているものが多く、用語などの意味理解があいまいなため、正確な解答を示すことができていない。	・授業で、基本的な計算問題を繰り返し練習し、家庭学習できるような手立てをする。 ・用語の意味がきちんと理解できるようにする。授業で、繰り返し確認する。
	B (活用)	○図形領域の正答率が高い。図形の論証については、無解答が少なく、正答率も高い。 ●関数や資料の活用の領域の正答率が低い。	・関数領域では、ICTを活用したり、グループ学習を取り入れたりしながら、興味・関心が持てるように授業内容を工夫する。 ・既習事項について復習できるような場面を設定する。
理科		○基礎となる単純な知識問題の正答率が高いため、専門用語等の基礎知識の定着ができていない。 ●電気分野、化学変化の分野での、思考力の問題の正答率が低い。	・計算問題や思考を問う問題についての演習が必要である。日ごろから、じっくり考えるという時間と姿勢が必要である。また、専門知識を使った、思考を応用するような考え方を転換する訓練の機会を作る。

(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



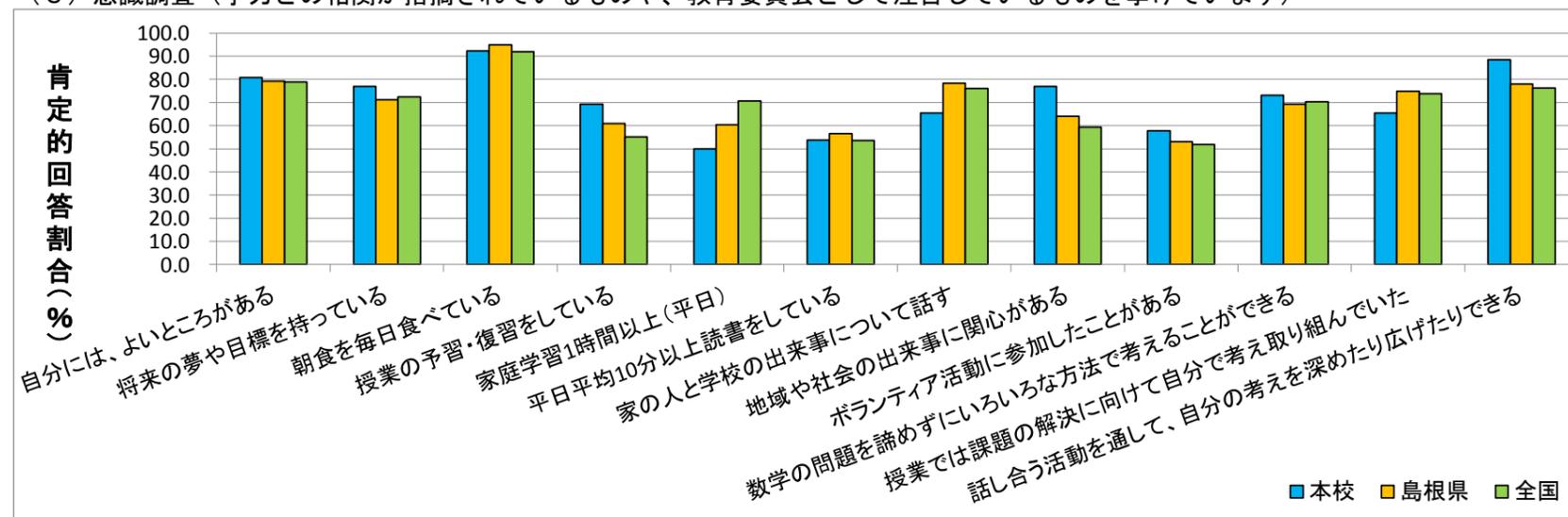
(2) 生活意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○：成果, ●：課題)	対策
		○授業の予習・復習について70%の生徒が必要を感じ、取り組んでいる。 ○話し合い活動によって考えをまとめたり、広げたり、深めたりする経験が良くなっている。 ●家庭学習時間が平日1時間以上の生徒が50%にとどまっている。 ●課題について、自分でじっくり考えて解決しようという意欲がやや低い。	・予習・復習を家庭で時間を確保してしっかり取り組めるように工夫 ・読む、書くという、一人で取り組む学習活動時間を確保

(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・家庭での生活習慣の改善について、保護者・小学校と協力して目標を焦点化して取り組み、評価をしながら、粘り強く行う。  
・学校図書館を活用して、読解力の育成や、一人で粘り強く調べて課題解決する活動を行う。

(3) 意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



【参考】

		平均正答率 (%)			
		本校	松江市	島根県	全国
国語	A	78	76	76	76.1
	B	61	61	61	61.2
数学	A	63	65	64	66.1
	B	41	46	45	46.9
理科		62	65	66	66.1

受検者数 24人  
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。